

応用ミクロ経済学

0. イントロダクション

(1) ミクロ経済学のキーワード

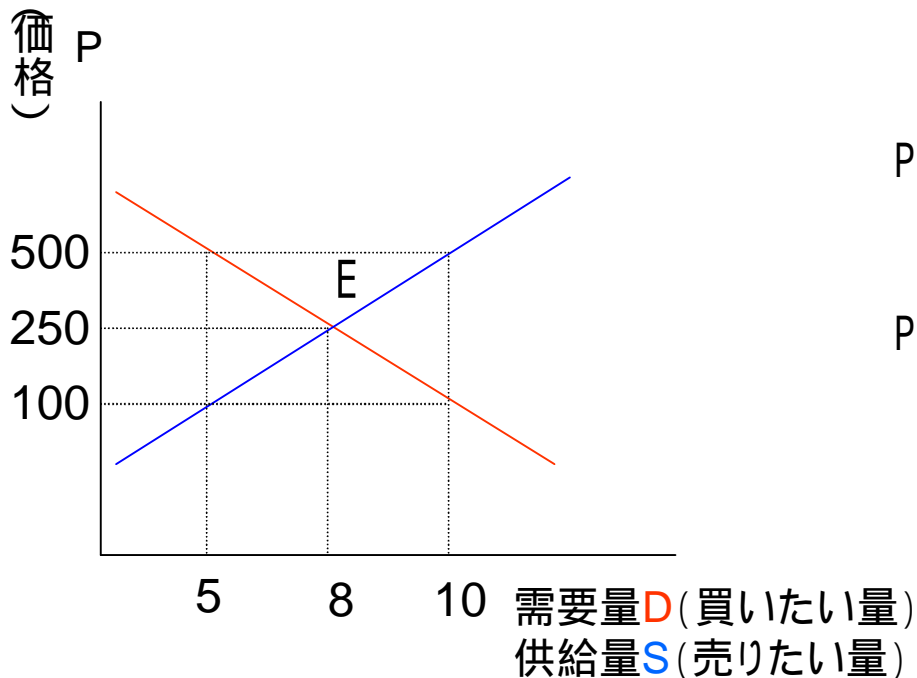
経済学(ミクロ)の復習

市場メカニズム

市場： 買い手と売り手が一堂に会する仮想の取引の場
売買する財の価格と量を決める仕組み

- ・ **需要曲線** : **消費者の行動**をあらわす
ある価格のもとで、どれだけみんなが**買いたい**か？
(通常は**右下がり**)
- ・ **供給曲線** : **企業の行動**をあらわす
ある価格のもとで、どれだけ**売りたい**か？
(**右上がり**)

ある価格のもとで、**需要量と供給量が等しくなったときに取引が成立する**
(需要曲線と供給曲線の交点)



P = 500のとき
D : 5 S : 10

P = 100のとき
D : 10 S : 5



価格が調整される

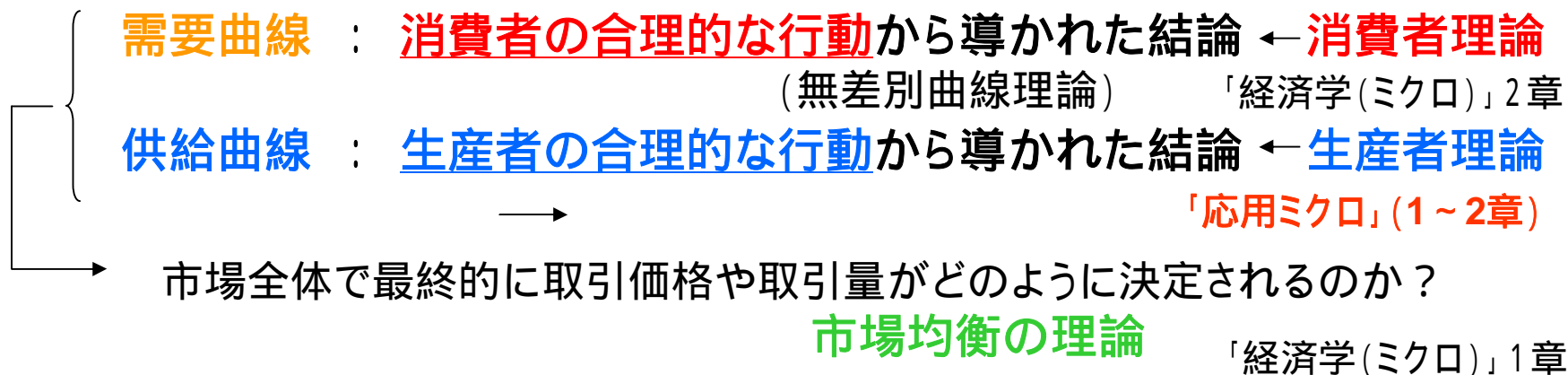
市場メカニズムの前提：
完全競争市場であること



消費者や生産者には価格支配力がない

ミクロ経済学の体系

基本は市場メカニズム



・市場メカニズムによると...

市場経済では、それぞれが利己的な(合理的な)行動をとっていても、
価格が調整されて、自由な取引により、効率的な資源配分が実現する

↓
本当にいつでもうまく実現するのか？

市場の失敗 政府の役割 「応用ミクロ」(5章)

・不完全競争の場合 独占・寡占 「応用ミクロ」(3章)

需給関係だけでは解決できない場合もある(ゲーム理論) 「応用ミクロ」(4章)

相手の行動(戦略)から自分の行動が影響を受けてしまう場合

「限界」 marginal → 微分の概念

新たに増える1円(コ)が重要！

追加的なメリット(利益) VS 追加的なコスト で考える



消費者理論

もうひとつ買うと、満足度が
どれだけ増えるのか？ (限界効用)

=

もうひとつ買うとき、
どれだけ支払うか (市場価格)

生産者理論

もうひとつ売ると、どれだけ
売り上げが増えるのか？

()

もうひとつ生産すると、
どれだけ費用がかかるのか

()



「微分」

() から導出



企業における生産の理論

()

(2) 本講義の構成

- 0. イントロダクション
- 1. 生産の理論
- 2. 費用の理論
- 3. 独占と寡占の理論
- 4. ゲーム理論
- 5. 市場の失敗 (外部性と公共財)

(3) 参考文献

「グラフィック ミクロ経済学 (第2版)」
金谷貞男・吉田真理子 著 新世社 (2008年) (3章～5章)

「ケーススタディで学ぶ 入門ミクロ経済学」(予定)
石川秀樹 著 PHP研究所(2010年)

本講義では、公務員試験、証券アナリスト試験の受験なども考慮に入れて、問題演習を適宜、取り入れて進めていく予定である。

したがって、そのために必要な数学的ツール(微分)が必要になってくることもあるが、その点は適宜、補いながら進めていく。

1年次の開講科目「経済学(ミクロ)」と合わせて、ミクロ経済学のほぼ全体の内容を網羅する予定である。

基本的には、プリント配布の予定。

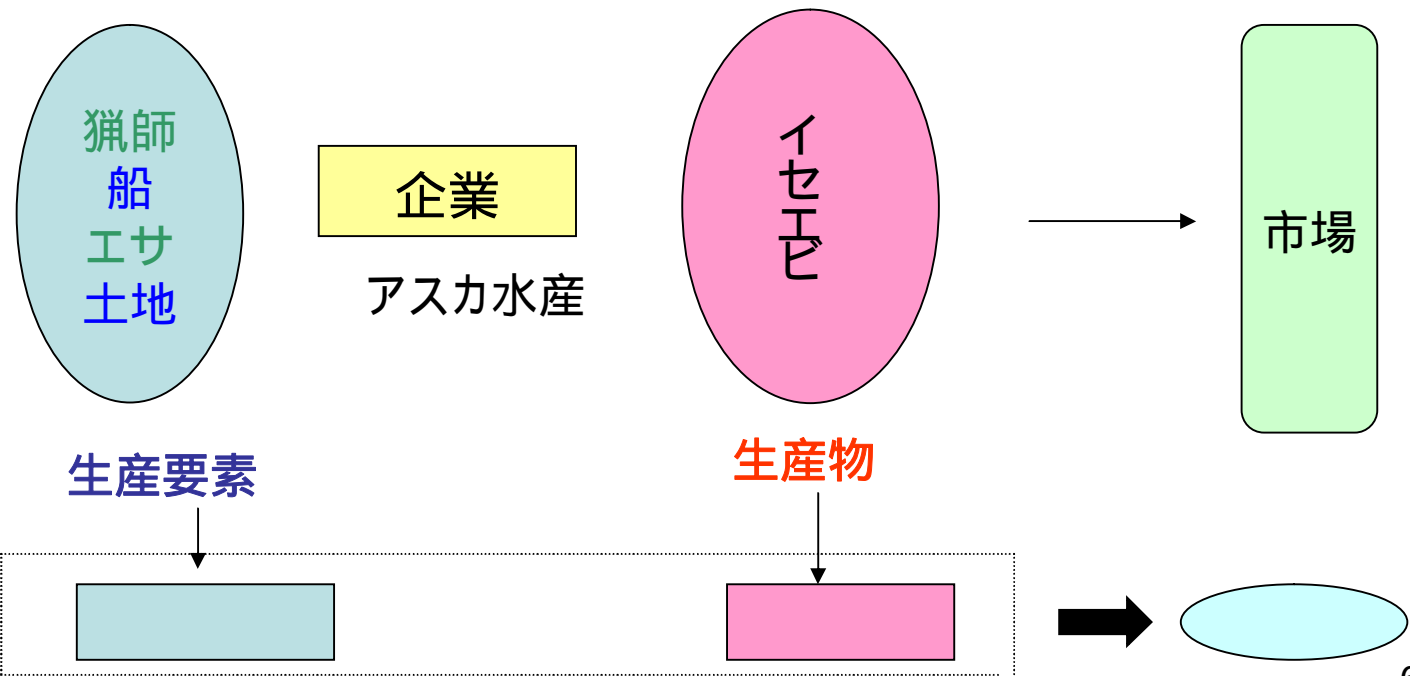
評価については、期末実施の試験のみによる (選択式20問の予定)。

第1章 生産の理論^{*}

1.1 企業の分析

企業の生産活動とは？

投入物を新しい財やサービスに変えるしくみ



* 本節で用いている例は 金谷・吉田「グラフィック ミクロ経済学」(3章以降)による部分が多い

生産要素

- 可变的生産要素... 生産に応じて投入量が調整できる → 可変費用
(例) 獵師 えさ など
- 固定的生産要素... 生産に応じて投入量が調整できない
(例) 船 土地 など → 固定費用
- (長期的にはすべての生産要素が可变的になる)

企業の目的

利潤の最大化

最大化

利潤

$$= \text{総収入} - \text{総費用}$$

$$= \text{市場価格} \times \text{生産量} - \frac{\text{生産要素価格} \times \text{投入量}}{\text{日当・時給} \quad \text{漁師の人数}}$$

イセエビ

point

費用の最小化

ただし

完全競争市場が前提
(企業はプライステイカー)

市場価格や生産要素価格は
所与とする

(例1) イセエビを1日20匹獲るために漁師が最低4人必要である。
イセエビ1匹の市場価格は3000円、漁師1人あたりの日当は1万円である。このとき

1. イセエビ20匹の生産に必要な費用は？

2. 1日の利潤は？

企業の意思決定

第1段階: ある生産量のもとで費用を最小にするためには
どれだけ投入するか? (投入量の決定)
効率的な生産がおこなわれているかどうか → 1章

第2段階: 最終的にどれだけ生産するか? (生産量の決定) → 2章

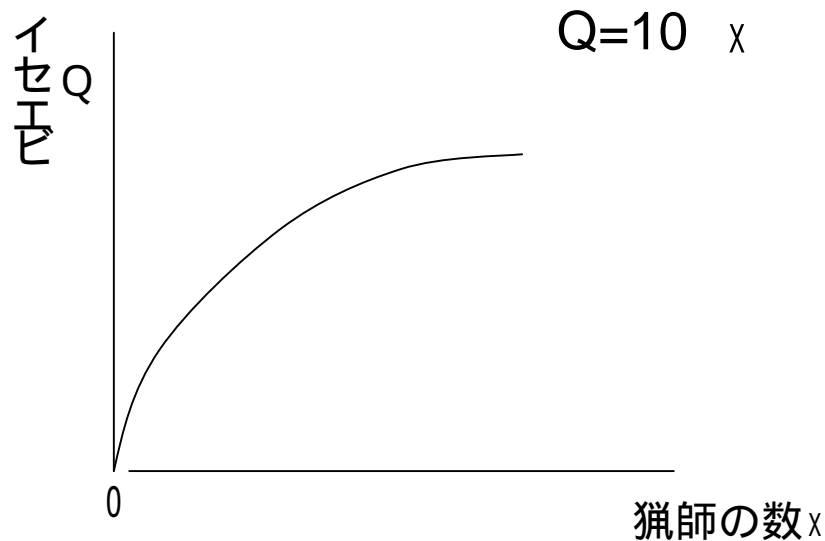
生産関数

生産要素投入量と生産量(産出量)との技術的な関係

ある生産要素投入量のもとで、最大、どれだけ生産できるのか

→ ある量の生産に必要な**最小の投入量**はどれだけか

(例) 猟師の人数 x と イセエビ Q との関係



通常は限界生産力逓減を
仮定する

効率的な生産がおこなわれて
いるならば、 x と Q の関係は
生産関数上にある

(例2) 上の生産関数であるとき、イセエビを1日30匹獲るときの
1日の利潤を求めなさい。(価格と日当は例1と同様)